

ベンゲット州訪問記

ーフィリピン・ベンゲット州で考えたことー

塹江 まほ

(高知県安芸農業振興センター職員)

フィリピン・ベンゲット州へ昨年6月に行ってきました。その時書いた日記を読み返し、書いています。

関西空港からフィリピンまで、本当にあっという間に到着。吉川さんをうらやましく思いました。自分の住んでいたホームタウンにこんなに近いなんて!!!同じ青年海外協力隊でも、アフリカOGの私の場合、最短で関西空港からドバイまで10時間、ドバイから西アフリカ・ガーナの首都アクラまで8時間かかります。それから、住んでいた町まで8時間。4年前に、日本に帰国後初めてガーナに帰ったのですが、なかなか遠く、一大決心が必要でした。

灼熱の日本からマニラ空港に到着すると、優しい雨が降っていて、日本にももうすぐこの雨が届くかなと思いました。空港では、うきうきするような生演奏の歓迎があり、とっても幸せな気分!!!

いざバギオまで出発。途中、サンフェルナンド・パンパンガで寺岡総領事ご夫妻と夕食をいただき、ひたすら北へ北へ。

このマニラからバギオまでの移動中、気がついたことは、道路沿いの家々に電灯はついていないけれども、日本のように明るくないことです。コンビニも日本だったら閉店しているような暗さですが、しっかり開店しています。民家も日本のように煌々と電灯はついていなくて、まっくら。でも、民家の前で椅子に座ってくつろいでいる人達がいいます。日本なら暗すぎる状態だが、ここでは普通なのだと思います。私がいたガーナでもそう



ルソン島北部上空からベンゲット州を望む



州庁舎にて(筆者:左から2人目)

だったのですが、いつのまにか、忘れていたようです。

バギオに到着後は、本当にあちこち行きました。(吉川さんは、そうでもないよと言われるかもしれませんが。)ベンゲット州庁舎・OPAG (Office of the Provincial Agriculturist)・トリニダッド庁舎・イトゴン・ニラ栽培をしている農家の方の家・野菜市場……。そして、本当においしいものをいただきました。特においしかったのは、野菜料理とメリエンダのお菓子です。10時と15時に必ずおやつがあるなんて、感激でした。

でも、一番嬉しかったのは、高知にいらした研修生の方々が忙しい中、会いに来てくださったことと、初めてお会いするのに昔からのお友達のように皆さんが接してくださったことです。はじめてベンゲット州に行ったのに、高知にいるような気分でした。

日本は先進国だとほとんどの日本人は思っているでしょう。でも、少しかだけ視点を変えて、フィリピンや他の発展途上国と言われる国々から学ぶ気持ちが、日本人に欲しいと思います。ベンゲットの方々と接していて、本当に彼らは、希望も悲しみも喜びも寂しさも全部シェアしています。その大切さを、私達、もう一度思い出してもいい時代ではないかと思えます。そうすれば、今、日本で発生している悲しい事件が減ると確信します。

最後に高知県で研修されたベンゲット州の研修生OB・OGが、組合を作って頑張っています。もう少しのサポートがあれば、本当に伸びる若者達……彼らをサポートしコーディネートするJOCVが、高知県から行ってくれないかなと強く思います。

吉川会長が 高知県文化環境功労者表彰受賞!

当推進会議の会長である吉川浩史氏が、多年にわたり本県と姉妹提携をしているフィリピン・ベンゲット州から農業研修生の受入を積極的に推進し、双方の農業の発展に尽力した功績が認められ、平成19年11月19日、高知県文化環境功労者表彰を受賞されました。

